

以て歿した。法號本寂院孤峰不白居士。野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長堅

加賀藩の老臣 村井氏第六代。實は前田美作守孝行の五男。元祿十五年出生。幼名右源太、後主膳。初諱孝通。寶永七年七月親長養うて嗣となし、正徳元年八月四日遺知一萬六千五百六拾九石餘(内千百拾石與力知)を領し、寛延元年五月藩侯前田重熙がその弟八十五郎を養子たらしめたが、幾くもなく之を指止められ、次いで寶曆四年十二月十八日從五位下豊後守に叙任し、七年正月四日(實は六年十二月廿九日)六十一歳を以て卒した。法號長壽院常山久榮居士。野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長貞

加賀藩の老臣 村井氏第十代。實は奥村左京實直の七男。通稱鈴之助・鈴之助・親貞。初諱之行。文化九年二月十三日出生。村井長道の末期養子となり、天保七年七月十三日遺知一萬六千五百六拾九石餘(内千百拾石與力知)を受け、十三年六月三日三十一歳を以て歿。法號長松寺守節貞幹大居士。野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長寛

加賀藩の老臣 村井氏第七代。實は前田對馬孝資の三男。初名吉十郎、後親貞・又兵衛。寶曆四年三月村井長堅養ひて嗣となし、七年四月朔日遺知一萬六千五百六拾九石餘(内千百拾石與力知)を受け、寛政二年二月十二日五十二歳を以て歿した。法號萬龍寺天外成功大居士、野田山に葬る。加越能産物方自記の著がある。

ムラキナガタ 村井長次

加賀藩の老臣 村井氏第二代。長頼の嫡男。永祿十一年尾張荒子に生まれた。童名又六、後左馬助・出雲。

初諱長明(弟も後に長明といふ)。天正十八年關東の役に従ひ、文祿元年父の致仕によつて家を嗣ぎ、一萬二千五百拾五石餘を領し、大聖寺戦後慶長六年七月十五日二千石を加増せられ、十年前前田利家の女千世姫を娶り、同年十月父の卒後隱居料四千石を併せて、都合一萬七千二百四拾五石餘を受けたが、十八年十一月七日旅次越前の匹田驛で歿した。享年四十六、法號一陽院好巖崇雪居士。野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長時

通稱又兵衛。幼名を七左衛門といふ。父は又兵衛長明。寛永十四年前田利常に召出され、父の歿後正保二年大聖寺藩臣となりて遺知三百石を襲ぎ、天和二年五拾石を加増せられ、町奉行・寺社奉行・御關所御預を勤め、元祿元年隱居し、同四年七十六歳で歿した。

ムラキナガタ 村井長朝

加賀藩の老臣 村井氏第四代。元和六年金澤に生まれた。通稱兵部。初諱長任。寛永十四年閏三月七日父の遺領一萬六千二百六拾九石餘を襲ぎ、十九年四月三日嫡母春香院(前田利長妹)遺領の内三百石を併せ、合計一萬六千五百六拾九石二斗七升となつた。明暦元年十二月四日享年三十六で小松に頓死。法號源溪院白巖了雪居士。野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長道

加賀藩の老臣 村井氏第九代。通稱又六・親貞・又兵衛。初諱長恵。長世の嫡男。文化十三年十二月召出されて新知二千五百石(内五百石與力知)を受け、文政十一年正月十九日父の遺知一萬六千五百六拾九石餘(内千百拾石與力知)を襲ぎ、天保七年五月十日歿した。享年四十一。法號

ムラキナガタ 村井長頼

尾張の人。平氏。加賀藩の老臣村井氏の家祖。その父玄齋長忠は織田信秀に仕へた人で、長頼は天文十二年荒子に生まれた。幼名長八郎。弘治元年前田利久に仕へ、翌年轉じて利家の臣となつた。永祿元年織田信長の尾張浮野の役に従ひ、十二年又伊勢大河内の攻城に功あつて祿七拾貫を受け、且つ利家の通稱又左衛門の一字を與へられて名を又兵衛と改めた。次いで元龜元年越前手筒山及び攝津天滿、二年越前金ヶ森、三年近江小谷城、天正元年越前一乘谷城、三年甲斐長篠の役等に皆功があり、同年

ムラキナガタ 村井長頼

利家の越前府中入部に従ひ、祿二百五拾石を受けた。九年利家能登に封ぜられ、十年石動山の役に従軍先登し、十一年利家の柴田勝家に黨して羽柴秀吉と近江に戦うた時、長頼は最も力戦して退却した。後利家・秀吉の和成り、利家は金澤城に治し、十二年朝日山に磐を築いて之を守らしめ、八月越中軍の來襲を撃退し、九月又佐々成政が末森城を圍んだ時、長頼は利家の後卷の軍に加つて之を破つた。十三年二月利家の命を奉じて越中連沼を襲うて捷ち、因つて祿四千俵を加賜せられ、五月阿尾城主菊池武勝が降を利家に納れたるを以て、長頼は利家に従うてその城を收め、八月秀吉の成政を征する爲北下した際には、戰袍を賜うて多年の功を賞せられた。後十九年六月利家の參議に昇つた時、從五位下豊後守に叙任せられ、文祿元年に至つて老を告げた。この時祿一萬千二百四拾五石に上つてゐたが、利家は別に四千石を長頼に與へ、全領を嫡子長次に譲らしめた。慶長四年利家大坂に薨じ、翌年芳春院夫人の證人として江戸に下るに及び、長頼これに従行し、十年十月廿六日遂にその地に卒した。年六十三。法號相光院峯月高齋居士。野田山に歸葬した。

ムラキナガタ 村井宗長

次郎左衛門の二子。通稱二郎左衛門。寛永十九年小松に於いて前田利常に仕へ、御側小將となつて二百石を受け、明暦二年御馬廻組に轉じ、延寶四年四月歿。子孫藩に世襲する。

ムリヨウイン

無量院 珠洲郡吉ヶ池に在つて、曹洞宗に屬する。應永三年奇峰の建立といふ。

ムリヨウジ

無量寺 石川郡大野庄に屬す

天龍寺長安臨道浩然大居士。野田山に葬る。長道は浩翁・浩齋・浩然道者・無間子とも稱し、世の所謂能樂愛好者が、謠曲八拍子・能辨惑の如き古書をのみ尊重するを憚らずとし、演技者の扮装に要する假面及び装束の研究に没頭し、天保元年三月に能面法則、假面集録、二年九月に面名集、同年十一月に謠曲私言、三年九月に能面鑑定大概を著し、別に裝束抄數卷の著があつた。その裝束抄の如き裝釘挿圖の美麗眼を眩せしめるものがある。長道の能面に關する智識は最も深かつたと見えるが、それは出目二郎左衛門滿志に啓發せられたものであるといふ。其の他雪小説がある。

ムラキナガタ 村井長世

加賀藩の老臣村井氏第八代。長寛の嫡男。初名喜四郎、後兵部・又兵衛。初諱長祥。寛政二年四月十日父の遺知一萬六千五百六拾九石餘(内千百拾石與力知)を領し、文政四年十二月廿六日從五位下豊後守に叙任し、十年十月廿六日歿、享年五十二。法號正壽寺長世子宣大居士、野田山に葬る。

ムラキナガタ 村井長頼

尾張の人。平氏。加賀藩の老臣村井氏の家祖。その父玄齋長忠は織田信秀に仕へた人で、長頼は天文十二年荒子に生まれた。幼名長八郎。弘治元年前田利久に仕へ、翌年轉じて利家の臣となつた。永祿元年織田信長の尾張浮野の役に従ひ、十二年又伊勢大河内の攻城に功あつて祿七拾貫を受け、且つ利家の通稱又左衛門の一字を與へられて名を又兵衛と改めた。次いで元龜元年越前手筒山及び攝津天滿、二年越前金ヶ森、三年近江小谷城、天正元年越前一乘谷城、三年甲斐長篠の役等に皆功があり、同年

ムラキナガタ 村井長頼

利家の越前府中入部に従ひ、祿二百五拾石を受けた。九年利家能登に封ぜられ、十年石動山の役に従軍先登し、十一年利家の柴田勝家に黨して羽柴秀吉と近江に戦うた時、長頼は最も力戦して退却した。後利家・秀吉の和成り、利家は金澤城に治し、十二年朝日山に磐を築いて之を守らしめ、八月越中軍の來襲を撃退し、九月又佐々成政が末森城を圍んだ時、長頼は利家の後卷の軍に加つて之を破つた。十三年二月利家の命を奉じて越中連沼を襲うて捷ち、因つて祿四千俵を加賜せられ、五月阿尾城主菊池武勝が降を利家に納れたるを以て、長頼は利家に従うてその城を收め、八月秀吉の成政を征する爲北下した際には、戰袍を賜うて多年の功を賞せられた。後十九年六月利家の參議に昇つた時、從五位下豊後守に叙任せられ、文祿元年に至つて老を告げた。この時祿一萬千二百四拾五石に上つてゐたが、利家は別に四千石を長頼に與へ、全領を嫡子長次に譲らしめた。慶長四年利家大坂に薨じ、翌年芳春院夫人の證人として江戸に下るに及び、長頼これに従行し、十年十月廿六日遂にその地に卒した。年六十三。法號相光院峯月高齋居士。野田山に歸葬した。

ムラキムネナガ

次郎左衛門の二子。通稱二郎左衛門。寛永十九年小松に於いて前田利常に仕へ、御側小將となつて二百石を受け、明暦二年御馬廻組に轉じ、延寶四年四月歿。子孫藩に世襲する。

ムリヨウジ

無量寺 石川郡大野庄に屬す